

～男女共同参画社会の実現に向けて～

モア MORE

ひとひと
幸手市女と男の情報紙
第14号 2009

モア(MORE)とは、より多く、より素晴らしいものにと、さらに女と男がより豊かに、と願いを込めて、この情報紙を命名しました。



「らっこう」 池浦 道夫 (峰水) 東三丁目在住

あったかさ

あなたが一番好きな場所は
どこですか？

家族がいる家？

みんながいる教室？

それとも

仲間と汗を流す体育館？

きつと あなただけの

とっておきの場所があるはず。

でもね？

だれもない教室。

あなたは入ったことが

ありますか？

とっても静かで 不思議な感じが

するかもしれない。

だけど

そこは 必ず「あったかさ」があるんだ。

東中学校

三年 後上 理穂

(平成二十一年三月現在)

特集 南 修治 コンサート

ひとひと 女と男の共生セミナー in 東中学校

幸手市男女共同参画推進協議会主催の「共生セミナー」は、平成20年11月28日(金)、幸手市立東中学校のご協力を得て、昨年度に引き続きシンガーソングライターの南修治さんをお招きし「輝いて生きる」をテーマにコンサートを開催いたしました。コンサートに先立ち、同協議会の会長より「共同参画は相手の気持ちに耳を傾けて、みんなの個性、能力を大事にしていくことです。人は一人では生きていけないから協力し合ってお互いを認めていきましょう。」と挨拶があり、続いて教頭先生が「学校、社会、家庭で差別の無い社会をつくっていきましょう。」と話されました。

そしてコンサートは、東中学校の生徒の司会で始まり、生徒は寒いなか、静かに聴き入りました。南さんは、全8曲の歌と共にあたたかいメッセージを贈って下さいました。その一部を紹介いたします。

「ゆっくりゆたかに」という曲の話の中では、お母さんはいつも子どもに「早くしなさい」と言っていますが、人には早い人がいるから遅い人がいる、だから、君は「君のままですばらしい」という話に生徒から大きな拍手が起こりました。



南さんは具体的に自分の荒れた中学時代の話にふれながら、生徒を励ましていました。また、自分のカウンセリングの経験から、あきらめない心や生きる大切さを訴えていました。きっと生徒達の心に響いたものと思われま。

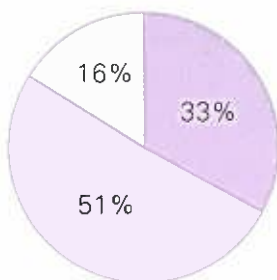
男女共同参画推進協議会としては、今回初めて中学生を対象にコンサートを開催させていただきました。若い人に共同参画の意識を少しでも理解するきっかけとなったことは、大変有意義であったと思います。

最後に、東中学校の皆さんのご協力に対して、心からお礼申し上げます。

男女共同参画アンケート

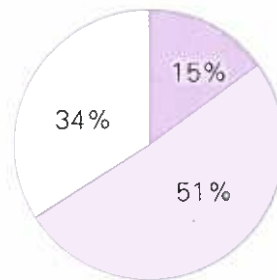
東中学校生徒の皆さんに、アンケートを実施いたしました。
(回答者数 186名/男女比 男51%:女49%)
ご協力ありがとうございました。

●あなたは、家事の手伝いを進んでしようとしていますか。



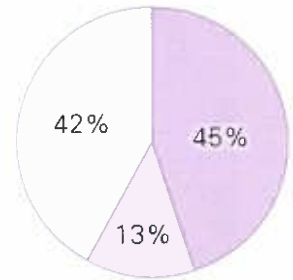
■決まった手伝いがある…33%
■いわれたらする…51%
■ほとんどしない…16%

●「男は仕事、女性は家庭」といった考え方もありますがどう思いますか。



■そう思う…15%
■そう思わない…51%
■よく分からない…34%

●生まれ変われるとしたら、男と女どちらが良いですか。



■男の方が良い…45%
■女の方が良い…13%
■どちらでも良い…42%



プロフィール

1957年生まれ。名古屋市出身のシンガー・ソングライター・カウンセラー。10代には非行に走り、荒れた青春時代を送ったものの、その時代を宝として現在の生活や音楽活動などにいかしている。

全国各地で年間100回あまりのコンサートとともに、子育て支援の講座、カウンセラー養成講座など250回以上の講演活動を行い、子育てに悩む母親たちの相談にもっている。

コンサートのテーマは「愛されて育つ」「ありのままがすばらしい」「愛ひとつあれば」など。

コンサートを聴いての感想

- ◆僕は南さんの話と歌を聴いてとても感動しました。
人は世界に一人一人、違う性格、能力なので比べる必要がないという事を聴いて自分を改める事が出来そうです。
- ◆今日は南修治さんの歌をきいて、おもしろかったです。また、このようなコンサートがあったら、参加したいなと思いました。
これからは、男女共に楽しく生きていきたいと思いました。
- ♥わたしは、南修治さんの歌を聴いてすごく感動しました。
歌詞の一つ一つが、すごく深い意味があって、今日もらった歌詞カードはずっと、とっておこうと思います。そして、つらいことがあったら歌詞を読もうと思います。
今日は本当にありがとうございました。
- ◆全て感情のこもった歌でとても感動しました。お話もとても素晴らしくて涙がでそうでした。
最後の歌の時、私は今行きたい高校があって、とても無理かなと思ったけれど、お話と歌を聞いてすごく希望がわいてきました。がんばろうと思います。
すてきな歌とお話ありがとうございました。

心に残った曲 ベスト3

1. もうひとつの涙
2. わかってほしい
3. 君のままですばらしい



♪もうひとつの涙

涙を流すときが一番
人は美しいと言われている
その中でも一番
輝いているのはいつだろう

もしも自分の夢のために
涙を流すことができたなら
どんなに辛かった出来事も
遠い世界のものになるだろう

悔し涙もあるけれど
悲しみの涙もあるけれど
もうひとつ許されるものがある
それは夢をかなえたときのもの

※ 思いつき自分のために
思いつき泣いてやるうぜ
思いつき生きていこうぜ

もしもその日その時に
心を抑えられるものなら
やってみるがいい、そんなこと
できやしないって知っているよ

全てをかけて生きてきたから
心にはもう何も残っていない
どんな力も及ばない
そのままの自分がいるだけ

悔し涙もあるけれど
悲しみの涙もあるけれど
もうひとつ許されるものがある
それは全てを成し遂げたときのもの

※繰り返し

逃げたりはしないと心に
誓ったあの日のこと
それが僕の青春の
始まりだったかもしれない

目の前に広がる世界は
どんなに長く遠くても
はっきりと目に映っているのは
古い自分に打ち勝った姿

悔し涙もあるけれど
悲しみの涙もあるけれど
もうひとつ許されるものがある
それは自分のために流す涙

※繰り返し

力のかぎり生きていこうぜ

日本女性会議 2008とやま

平成20年10月17日(金)18日(土)に男女共同参画の推進を目指す、国内最大級の集いである日本女性会議が富山市にて開催されました。今回のテーマ「^{きらめ}煌く人とひと、連なる峰々へ」のもとに全国から約2,600人が参加しました。

富山を代表する伝統芸能「越中おわら」踊りで始まった開会式に続き、板東久美子内閣府男女共同参画局長から政府の施策の現状と今後の課題について基調報告がありました。基調講演では広岡守穂中央大学教授が「実体験に基づくワークライフバランスが男女共同参画推進において重要である。」とユーモアを交えて話されました。

シンポジウムは、高橋はるみ北海道知事(富山市出身)ら3人が仕事と家庭(育児と家事)をどう両立させるか、女性リーダーの育成について活発に論議されました。

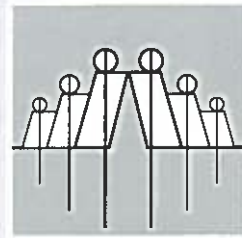
2日目は、福祉・食・女性と表現・ワークライフバランス・歴史等のテーマに13の分科会でトークやディスカッションが行われ、「女性の品格」著者の坂東真理子昭和女子大学学長(立山町出身)、女優の室井滋さん(滑川市出身)ら富山県出身者が講師を務めました。

基調講演～「男女共同参画何が変わるのか？」～

基調講演では、男女共同参画のテーマを家族レベルの身近な話題として取り上げ、わかり易くユーモアたっぷりに語ってくれた。男として父親として、女として母親として、家庭生活の営みの中での夫婦や親子間の意識のずれが具体的に示され、私の問題として共感できる場面が幾つもあった。

たとえば子育て時代のエピソードとして、父親は家族サービスと思って妻や子供達をせせと色々な所へ連れて行ったことを「とてもいい父親だった。」と振り返ったのに対して母親は「私は一人になれる時間が一番欲しかった。」と言う。思わずうなずいてしまった。相手の気持ちを理解することの難しさ、大切さを説いた。

日本女性会議2008とやまの シンボルマーク



女性も男性も互いに理解し合い、それぞれが一人の「人間」として人生を輝かせ、煌きながら生きることの大切さを伝えます。

その生き方の連携が拓く、より豊かで美しい社会のありようを、煌く尾根が連なる立山連峰の雄姿にイメージを重ね合わせて表現しています。

午後の記念講演は、歌手の加藤登紀子さんが、「土のひびき」と題し自然を愛する大切さを訴えました。

加藤さんは、UNEP(国連環境計画)親善大使として訪れたアフリカでもペットボトルが捨てられていたことに愕然としたそうです。私達人間が効率性だけを求めてきた結果、土に還らないゴミを増やしたり多くの自然を破壊してきた現状を嘆きます。そして自ら運営している「鴨川自然王国」を拠点とした活動を通して地球は循環型社会へのシステムづくりが必要であると話されました。その後、閉会式が行われ次年度開催地堺市へ引き継がれ閉幕しました。

中央大学法学部教授という第一線で活躍している講師が、障がいを持ったお孫さんの誕生をきっかけにして自分自身が変わり、家族の絆の強さ、優しさ、豊かさを深めていく様が私の芯の部分に強く響いてきた。

人間とは、自分の存在そのものを見つめてくれる人が必要。上から見おろしたり、下から見上げたりの関係は悲しいもの。対等に接することが大切と優しい語り口の中にとっても強いメッセージを届けてくれた。



分科会

「今、食文化を考える」～食の安全と地産地消～



最初にコーディネーターの忠田北日本新聞社編集局次長兼報道本部長から食文化を考える上での現状と問題点、今後のあり方について説明がありました。それを受けて4名(作農家、料理学校長、消費者、行政(富山市))のパネリストから個々に食文化、食の安全・安心、行政の施策等、具体的な報告があり活発な議論が交わされました。

議論の中心は、自分で食べるものは自分で作ることが大切である(自給率の向上)、生産者の顔が分かることが食の安全・安心に繋がる(地産地消)。

特に、富山県は、野菜生産額全国47位で富山市としても地場野菜の振興の為に、地場もん屋加盟店(163店)の拡大、富山とれたてネットワークの推進、農業サポーター養成制度、家庭菜園講習等を行っています。

食の関心が高まっている今こそ、市民と行政の枠をこえたこのような取組みが必要ではないでしょうか。

最後に“食べることは生きること”である。そのことが「食の安全・安心」の原点との言葉に大いに感銘した分科会でありました。



仕事と生活の調和～自分らしく生きるために～

現代の私達の生活や働き方は様々であり、自分なりのバランスのととり方が必要です。

そこで、内閣府は、「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)憲章」を平成19年12月18日に策定しました。キャッチフレーズは《ひとつ働き方を変えてみよう!…カエル!ジャパン》で、緑のカエルをマークに推進を始めました。

憲章は、具体的には3つの柱で成り立っています。

- ①就労による経済的自立が可能な社会
フリーター数の減少、就業率アップ等
- ②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会
週労働時間60時間以上の雇用者の割合の減少、年次有給休暇取得率アップ等

③多様な働き方・生き方が選択できる社会

育児休暇取得率アップ、男性の育児・家事時間の増加等

ワークライフバランス(WLB)の対象は、既婚女性だけでなく、老若男女を問われていないことを再確認し、理想論としてとらえることのないよう意識改革が重要です。そして、企業や働く人達、国、地方公共団体の理解や促進が不可欠です。

社会情勢が厳しい時代だからこそ男女が家庭・職場・学校・地域のあらゆる分野で、お互いを尊重しあい個性と能力を発揮できる男女共同参画が求められるのではないのでしょうか。

ワークライフバランスが幅広く理解されることを強く願いました。

ときめき感動の時『おばあちゃん笑顔』

私は、訪問ヘルパーをしています。毎日の仕事の中で高齢者の方と接してもう7年が過ぎようとしています。

そんな中で、私が訪問しているおばあちゃんがあります。昼間ひとりになり、ベットから起きることが出来ないで、朝・昼・晩と毎日ヘルパーさんが伺っています。私は週に2回ほどですが、おばあちゃんに会うのが楽しみでなりません。

今はもう、話も聞きとりにくくなっているので、こちらから声をかけてうなずいてもらったり、首

を振ってもらったりして会話を楽しんでいます。

そして毎回思うことですが、おばあちゃんの笑顔は最高なんです。部屋に入るとなんともいえない素敵な笑顔で迎えてくれるおばあちゃん。

そのおかげで、今日一日私も笑顔でいられるように感じるのです。動くことは出来ませんが精一杯の笑顔でみんなに、何かを気づかせてくれる…素敵ですね。

私もそんな笑顔で、年を重ねられたらいいなと思います。



輝きコーナー我が家の場合

今回ご紹介するのは、神廟にお住まいの中田昌さん、遵子さんご夫妻です。熟年世代の理想的なお二人に秘訣などを伺ってみました。

昌さん、遵子さんは退職後、ご夫妻それぞれに趣味を楽しんでいらっしゃいます。

昌さんは「あんさんぶる花」の指導者として、主に幸手、春日部の病院や高齢者施設からの依頼を受け、年間15回を超えるコンサートの指揮をとり、コーラスを通してのボランティア活動に活躍されています。

「楽しかった。また来てくれるのを楽しみにしています。」の声に励まされ、どんな歌が喜ばれるのか色々と選曲を考えたり、きれいなハーモニーをつくり上げていくことに生きがいを感じている、とおっしゃいます。

また、遵子さんも、太極拳、文芸幸手、古典文学など生涯学習に忙しい毎日を送っていらっしゃ



中田昌・遵子さんご夫妻

います。中でも一番長く続けているという太極拳について、「まだまだ難しくて…」とその奥の深さと魅力を真剣に話してくださって、取材の私たちに「一緒にやりましょうよ、楽しいですよ。」とお誘いの声がかかってしまいました。(笑)

お二人揃って出掛ける機会は以前より少なくなったということですが、お互いの活動を尊重し合っ

独立行政法人「国立女性教育会館 (National Women's Education Center=NWEC)」の紹介

男女共同参画社会の実現を目指して昭和52年に文部省附属機関として設置され、一昨年開館30周年を迎えました。

宿泊施設を兼ね備え、講堂、大会議室、研修室や、体育館、テニスコートもあり、これまで幅広い学習活動に利用されてきました。

昨年には女性アーカイブセンターが開館し、ここでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性、全国的な女性団体や、女性教育、男女共同参画施策等に関する資料を見ることができます。これらの施設は男女を問わずどなたでも気軽にご利用いただけます。男女共同参画の形成に向けての「学び」・「活動」の場として、みなさんも利用してみませんか。

独立行政法人「国立女性教育会館」

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地

☎0493-62-6711(代)

<http://www.nwec.jp/>

表紙の書



池浦道夫さんは、若い時に字が上手になりたいと思い書道を始めて三十四年になります。現在、サンケイ国際書展審査会会員他で活躍されておられます。

今回の作品は、「楽しく康やかに」です。

● ● 編 ● 集 ● 後 ● 記 ● ●

特集で紹介した中学生から見た男女共同参画はいかがでしたか。今回実施したアンケートから「中学生」の視点や姿を知ることができたと思います。

これからもこのような機会をいかしながら男女共同参画推進活動に取り組んでまいります。

ご意見ご要望を事務局までお寄せ下さい。